

第4学年 音楽科学習指導案

授業者 新潟県長岡市立大河津小学校

平出 久美子

1 題材名

「曲のとくちょうをとらえて表現しよう ―まいあがれ！わたしたちの HANABI―」

(教材曲：「HANABI」 弓削田健介作詞・作曲、協力 能登と長岡の児童生徒)

2 題材の目標

- (1) 「HANABI」の曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりなどについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付ける。

【知識及び技能】

- (2) 「HANABI」の旋律、強弱、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。 【思考力、判断力、表現力等】

- (3) 曲の特徴を捉え、強弱や音の重なりを工夫して表現する活動に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組み、花火の歌に親しむ。【学びに向かう力、人間性等】

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

第4学年 A表現 (1) 歌唱

ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア)範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能

(イ)呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能

(ウ)互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：

「旋律」「強弱」「変化」)

4 題材観

明るく親しみやすいリズムの楽曲で、順次進行で安定して歌いやすい旋律の斉唱から始まり、17小節からのリズムの変化、順次進行の掛け合いで、2部合唱初心者の中学年の子どもにも容易に合唱ができる。高音の旋律を伸ばしている所に、低音の旋律が重なり、次々に花火が打ちあがるスターマインの様子が想

像でき、旋律の上昇と花火の打ちあがりを表現することができる。34小節からは、3度の和音が中心となっており、きれいに音が重なる美しさを味わう。最後は掛け声も入っており、声の音色を変化させ、世界に自分たちの花火への思い、人々の思いを届けたいという意欲を高めて歌う姿が期待できる。

<教科等横断的な学習>

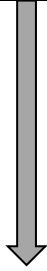
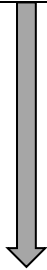
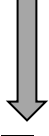
- ・図画工作科…「空を染めていく光の水彩画」から、夜空を彩る花火をテーマにした絵画表現の学習をする。歌詞から様子を想像し、色・形・思いを工夫しながら絵画表現をする。自分が実際に見た花火の様子や、「HANABI」曲や歌詞から想像した様子を想像させることにより、自分なりの発想をもって表現を工夫する姿が期待できる。また、「HANABI」の楽曲を聴きながら絵画を制作することで、音楽の構造（旋律の動きや音の重なりなど）に気付いていく姿が期待できる。
- ・理科…「音のふしぎ」の学習と関連付け、花火が打ち上がる時に体験した、音と振動との関係について考える。音楽室の楽器の音探しをする。トライアングルを手で直に持って打つ時と、紐を通して打つ時の音の違い、大太鼓を打ったり手で押さえて打ったりする中で、音と振動との関係について考える。楽器の振動を体感した後、「エンマコオロギ」や「カンタン」など虫の鳴き方を観察し、羽の振るわせ方と音の違いに気づき、音と振動の関係を理解する姿が期待できる。理科の学習を、音楽科の器楽や音楽づくりの学習に繋げていく。

5 児童の実態

（各学校の実態に応じる）

6 題材の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の内容との関わりについて気付いている。 技 思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。	思 旋律、強弱、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	態 曲の特徴を捉え、思いや意図に合うよう強弱や音の重なりなどを工夫して表現する活動に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

次	時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
第 1 次		◎「HANABI」の曲の特徴を捉えて歌う。			
	第 1 時	○「HANABI」の歌詞の表す情景やリズム、旋律の動きなどの曲の特徴を捉える。 ・歌詞を読んで好きな歌詞を書き出す。 ・歌詞の情景と自分の経験を重ね合わせ、絵画に表現する。 （「図画工作科」絵画表現の学習で絵画を描く。「理科」音のふしぎの学習で、花火の音と振動との関係を学ぶ。） ・曲を聴いて好きな所、楽譜を見てリズムや旋律の動きなど特徴的な所を書き出し、曲の特徴を捉える。 ・リズムや音程に気を付けて、楽譜を見ながら歌詞唱する。	 知① 観察 記述		
	第 2 時	○「HANABI」の曲の特徴を捉えて主旋律と副次的な旋律を歌う。 ・「瞳を閉じても輝く」などの部分について、リズムや旋律に気を付けて、主旋律を歌詞唱する。 ・副次的な旋律を、リズムや旋律に気を付けて歌詞唱する。 ・主旋律と副次的な旋律のパートに分かれて、全員で「HANABI」の歌詞唱をする。	技 観察 記述 聴取		
第 2 次		◎旋律、リズムをよりどころに、どのように歌うか思いや意図をもち、表現を工夫して歌う。			
	第 3 時 本時	○旋律、リズムなどをよりどころにして、「HANABI」の旋律や副次的な旋律の、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 ・始めは斉唱、25 小節目から掛け合いの合唱、34 小節目から 3 度の和音の合唱になっていることを捉える。 ・25 小節目からの曲想の変化の部分を、表現を工夫して歌う。 ○主旋律と副次的な旋律にパートに分かれ、呼吸に気を付けて自然で無理のない歌い方で音を重ねて歌う。 ・34 小節目からの 3 度の和音がきれいに重なるように歌い方を試行錯誤する。	 技① 観察 記述 聴取		
	第 4 時	○「HANABI」の旋律、強弱、歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。 ・「瞳をとじても輝く」「舞い上がれ HANABI」などの歌詞や旋律に着目して強弱をどのように工夫するか考えたり歌ったりする。 ○思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。 ・友達に表現の工夫を伝えたり、表現のよさを伝え合ったりする。		 思① 観察 記述 聴取	

8 本時の学習

(1) 本時のねらい

旋律、リズムなどをよりどころにして、「HANABI」の主旋律や副次的な旋律の重ね方を試す中で、旋律の動きや、次の音を意識して歌うとよいことに気づき、自然で無理のない歌い方で音を重ねて歌うことができる。

(2) 本時の展開

段階	○学習内容 ・学習活動	発問・指示「 」 ◇児童の反応	※指導上の留意事項 ★評価
導入 【10分】	○旋律や副次的な旋律の、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 ・掛け合いの旋律を工夫して歌う。	「掛け合いの旋律を重ねて歌いましょう。」 ◇主旋律の伸ばす音をしっかり保ったら、副次的な旋律ときれいに重なった。同じ歌詞の所が他のパートときれいに重ならない。 ◇副次的な旋律が追い掛ける時、主旋律より弱く歌ったら、花火が2回打ちあがるようにきれいに重なった。「舞い上がれ」からの重なりがうまくいかないから、きれいに重ねたい。	※歌い方の工夫のよさを伝え合い、技能の高め方を共有できるようにする。
展開 【25分】	○主旋律と副次的な旋律にパートに分かれて、音の重ね方に気を付けて歌う。 ・34小節目からの和音が重なるように、試行錯誤して歌う。 ・音の重ね方の工夫の視点を共有する。	◎主旋律と副次的な旋律がきれいに重なるように歌おう。 「3度の和音をきれいに重ねるにはどうしたらよいでしょうか。」 ◇旋律の動きを手で表しながら歌ってみよう。 ◇初めの音をキーボードで音取りをして、2つのパートを重ねてみよう。 ◇始まりの音と、その前の音を繰り返し練習したらきれいに重なってきた。 「他のグループと聴き合って、音がきれいに重なっているか確かめましょう。」 ◇旋律を手で表しているから、きれいに重なっている。自分たちも試してみたい。 ◇旋律の動きや、切り替わりの音を繰り返したら、きれいに重なるようになった。みんなで合唱してみたい。	※和音をきれいに重ねるための工夫の視点を共有し、試行錯誤する際の選択肢を広げる。 ※友達の表現を聴き合い、よさを伝え合うことで、自分たちの表現に生かすことができるようにする。
まとめ 【10分】	○呼吸に気を付けて自然で無理のない歌い方で音を重ねて歌う。	「2つの旋律をきれいに重ねて歌いましょう。」 ◇2つのパートがきれいに重なるようになって嬉しい。歌詞の意味がもっと伝わるように、強弱を工夫して歌いたい。	★思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(技観察・記述)

9 本時の評価

旋律、リズムなどをよりどころにして、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌うことができる。

	A 十分満足できる	C 努力を要する
児童の様子	和音をきれいに重ねる視点に気付き、言語化したり、自然で無理のない歌い方で歌ったりしている。	和音の重ね方の視点を見出すことができない場合は、友達の工夫を試すように伝え、教師と一緒に歌う。視点が分かっていても技能が伴わない場合は、教師の声を聴きながら一緒に歌う。

10 参考資料・文献

- ・ 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 音楽』東洋館出版社
- ・ 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説 音楽編』東洋館出版社
- ・ 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説 図画工作編』東洋館出版社
- ・ 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社